

[その他]

九州看護福祉大学における養護教諭のリカレント教育に関する研修報告

柴田 恵子¹・古賀由紀子²・國木 孝治³・吉岡 久美⁴
水間 宗幸⁴・桑嶋 晋平⁵・古江 佳織¹・古城 玲子⁶
山本 亜希⁷・岩永 紗枝⁷・村田 真衣⁷

【要旨】

令和4年度「学校教育における外部人材活用事業」として教職課程運営委員会が養護教諭を対象としてリカレント教育を実施した。実施期間は令和4年6月から令和5年3月までで、受講者の募集期間は6月中旬から12月中旬までの6ヶ月とした。講座は大きく2つに分け7月から8月は採用試験対策講座、8月から令和5年3月までを知識習得講座とした。実施方法はインターネットを利用したオンライン講座で、動画視聴とZoom（ビデオ会議システム）を利用したリアルタイムオンラインとした。受講者への周知も大学ホームページを活用し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を行いつつ研修の機会と教育内容の受講を可能にするための取り組みとなった。

キーワード：リカレント教育、外部人材活用事業、就職氷河期時代、養護教諭、教職課程

【緒言】

令和4年度「学校教育における外部人材活用事業」の「令和4年度 就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業」（文部科学省委託事業）の公募に応募し、採択された。教職課程運営委員会が本事業を実施したのでここに報告する。

文部科学省委託事業としての「就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業」については、2020（令和2）年3月付「令和元年度氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業委託要項」において、「就職氷河期世代は、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代」とされていた。そして、この世代に対する本格的支援プログラムに3年間で集中的に取り組む、と述べられていた。

令和2年度の「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施）」の申請・採択状況は、申請が41大学・66プログラムで、採択は

40大学63プログラムであった。令和3年度の「学校における外部人材活用事業」に採択されていたのは8大学で、あらためて「教師」を目指すためのリカレント教育プログラムで、対象は既に教員免許を取得している方で2つのプログラムが設定されていた。教員免許を持っており更新をする「更新型」と取得している免許を基礎に新たな免許を取得する「新規取得型」の2つである。8大学のうち7大学が更新型（香川大学、滋賀大学、昭和女子大学、東京学芸大学、兵庫教育大学、佛教大学、北海道教育大学）で、1大学が新規取得型（愛媛大学）であった。令和4年度に採択されたのは、本学を含めた4大学（香川大学、滋賀大学、北海道教育大学）であった。

財務省の月刊誌（2021年8月号）によれば、大学等のリカレント教育の実施状況については「社会人を対象としたプログラムを提供している割合は25%程度と少ない」と指摘されていた¹⁾。

リカレント教育については、「生涯教育」から“学習者の主体性と自立性”重視の「生涯学習」へと変化し、近年は“生涯学習の第3のブーム”としてリカレント教育（社会人の学び直し）へと移り変

¹九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科、²口腔保健学科、³鍼灸スポーツ学科、⁴社会福祉学科、⁵日本女子大学、⁶教職課程支援室、⁷教務課

わってきた²⁾。1965年のパリでユネスコの成人教育部長のラングラン（Paul Lengrand）により『生涯教育について』が提案され、古典的生涯教育論はユネスコによる生涯教育（生涯学習）思想へとつながっていった³⁾。そして1973年の経済協力開発機構（OECD）の報告書において『リカレント教育－生涯学習のための戦略－』が示され、リカレント教育論は“学校という教育機関の社会的活用に焦点をあてた論理構成”だとされていた⁴⁾。近年においてのリカレント教育は、「Society5.0 に向けた高等教育イノベーション」だとされており、重要課題として「技術革新に対応した社会人のスキルアップ（リカレント教育）」が指摘されていた⁵⁾。

本学においては平成10（1998）年の開学時から教職課程を設置し、看護学科と社会福祉学科で養護教諭の養成を開始し、平成22（2010）年からは口腔保健学科での養成も始まり現在に至っている。保健・医療・福祉の資格取得の養成に関わる本学においては、国家試験受験資格の取得を卒業要件としており、教職課程に係る科目は選択科目として位置づけられており、学生は3年次から教職課程の履修を申請し認められることで免許取得につなげている。

養護教諭一種免許状の取得は157校で行われており、教育系は31校（19.75%）、看護系は84校（53.5%）、学際系は42校（26.75%）で、看護系大学について設置主体別にみると国立大学26校中9校（34.6%）、公立大学20校中17校（85%）、私立大学111校中58校（52.3%）である。養護教諭の養成は主に私立看護系の大学が担っていることが多く、本学での養護教諭を対象としたリカレント教育の研修の実施は、近年の教育事情を反映した実施につながっていたといえよう。研修を通して、本学における教職課程運営委員会の課題も明らかになったのでここに報告を行う。

【事業の概要】

1. 実施体制

円滑な事業実施のために、以下のように実施体制を整えた。

1) 実施団体

学校法人熊本城北学園 九州看護福祉大学

2) 代表者

学長 肥後成美

3) 事業実施責任者

教職課程運営委員長 柴田恵子

4) 事務担当者

教務課長 山本亜希

5) 事業（講習）実施担当者

教職課程運営委員長 看護学科 教授 柴田恵子

教職課程運営委員

口腔保健学科 教授 古賀由紀子

鍼灸スポーツ学科 教授 國木孝治

社会福祉学科 准教授 吉岡久美

社会福祉学科 専任講師 水間宗幸

社会福祉学科 専任講師 桑嶋晋平

看護学科 助教 古江佳織

教職課程支援室

社会福祉学科 助手 古城玲子

2. 事業の実施について

1) 実施日程

受講者の募集期間は6月13日から12月16日とし、2つの講座を開設し、実施時期は7月～令和5年3月末までとした。講座の開設はオンライン講座での実施であるため視聴期間を令和5年3月までと設定した。採用試験対策講座は7月から8月、知識習得講座は8月から令和5年3月とした。そして、研修報告会は受講者と担当者の日程を調整した結果、令和5年2月22日に行うこととした。

2) 受講に関する募集

「令和4年度 就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業」要領より一部抜粋し、募集内容を作成した。受講対象者については以下の通りである。

(1) 受講対象者

- ・プログラムの受講前に教員採用試験の受験や臨時的任用リストへの登録など学校現場で勤務する意思があることを書面により確認できる者
- ・養護教諭免許状を所持している者（一種・二種は問わない）
- ・ウェブカメラ・マイクを使用できるPC・ネットワーク環境を持っている者
- ・支援開始月の前月末日（「基準日」という）時点において、35歳以上55歳未満の者
- ・基準日から起算して過去1年間正社員として雇用

されていない者、かつ基準日から起算して直近5年間に正社員としての雇用期間が通算1年以下の者や、おおむね1年以上の間に臨時的・短期的な就業を繰り返すあるいは臨時的・短期的な就業と失業状態を繰り返すなど不安定就労の期間が長い者、非正規雇用の就業経験が多いあるいは就職後の就業期間が短いなど安定な就労の経験が乏しい者

(2) 受講者の応募状況

募集期間は令和4年6月13日（月）から令和4年12月16日（金）である。応募人数は2名であった。応募者2名は年齢が35歳以上55歳未満の就職氷河期世代に該当し、受講要件を審査した結果、受講を決定した。また、2名とも熊本県内在住であり、養護教諭または養護助教諭の経験があった。

(3) 講習の実施方法

インターネットを利用したオンライン講座を2つの方法で実施した。タイプAは、動画配信システムを利用した動画視聴で、タイプBはZoom（ビデオ会議システム）を利用したリアルタイムオンライン受講である。

3) 講習内容

(1) タイプAの動画視聴

①採用試験対策

採用試験対策については、講師として現職の校長と教員採用試験に合格した教職課程の卒業生に依頼し、試験対策についての講話を実施する。講話終了後には講師を交えた対談を行うことで、採用試験対策についての実際を学習できるように設定する。

②一次採用試験対策講座

教職教養と養護教諭専門の専門教養について対策ができる内容を準備する。今回は、株式会社時事通信社の許可を得た講座の動画を活用する。

③二次採用試験対策講座

本学の教職課程運営委員が講座を担当した。内容は、二次採用試験において実施される面接、模擬授業、救急法実技、フィジカルアセスメント、養護教諭としての対応とする。

④知識習得講座

就職氷河期世代を対象とした講座であることから、近年の教育事情を反映した内容を講座で提供することとした。内容は、児童生徒の心身の健康問題、教育政策の動向、子どもをめぐる学校と社会の状況、

発達障害の理解と対応についてである。

(2) タイプBのリアルタイムオンライン受講

①研修報告会「まとめの会」

リアルタイムオンラインで受講者と担当者とが一同に参加し、今回の研修についての振り返りを行うことでまとめの会とする。

【実施状況】

1. 受講者

30代女性の2名が受講した。

2. 受講者専用ページでの実施

本学のホームページの受講者専用ページから受講者は専用パスワードでログインし、動画を計画的に視聴した（図1）。視聴することで生じた疑問や質問については、常時対応できるように専用メールアドレスを事前に伝え対応した。



図1. 受講者専用ページ

3. 実施状況

1) 採用試験対策

(1) 現職の校長による採用試験対策

講話の内容は、養護教諭の沿革から勉強に臨む姿勢、コロナ禍対応等、学校現場の視点から幅広く解説が行われた（図2）。

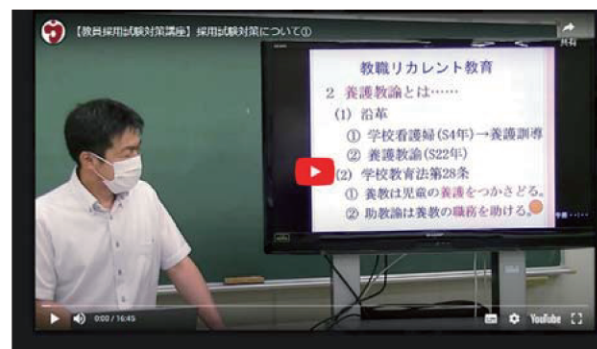


図2. 現職の校長による採用試験対策

(2) 教職課程卒業生による採用試験対策

令和3年度に本学看護学科を卒業した現役の養護教諭が、教員採用試験対策として実際に行った勉強法、参考にしたテキスト等を紹介しながら解説が行われた(図3)。



図3. 教職課程卒業生による採用試験対策

(3) 教職課程卒業生による採用試験対策(対談形式)

教職課程卒業生2名及び教員1名による採用試験対策に関する対談を実施した。卒業生2名はそれぞれ現役の養護教諭で、学生時代の勉強法、実際に働いてみての学校現場の様子等について対談形式で行うことで受講者の理解度を高められるようにした(図4)。



図4. 対談形式による採用試験対策

2) 一次採用試験対策講座

教職教養、専門教養(養護教諭専門)及び直前ガイダンスの各講座の動画を配信した(表1)。

表1. 一次採用試験対策講座

教職教養	教育原理
	学習指導要領
	教育史
	教育心理

専門教養(養護教諭専門)	教育法規
	教育時事
	学校保健、学校安全
	養護教諭の職務、学校関係職員
	保健室、健康観察
	健康診断
	学校環境衛生
	健康相談、メンタルヘルス
	疾病とその予防
	養護教諭の専門知識
直前対策ガイダンス	救急処置
	保健教育
	2022年度 直前対策ガイダンス

3) 二次採用試験対策講座

養護教諭の二次採用試験の対策として、面接、模擬授業、救急法実技、フィジカルアセスメント、養護教諭としての対応について動画を配信した(表2)。

表2. 二次採用試験対策講座

面接	面接のポイント
	面接の実際
模擬授業	模擬授業のポイント
	模擬授業の実際
救急法実技	救急法実技のポイント
	前腕部の骨折固定(アセスメント等を含む)
	鎖骨骨折の固定
	エビペンの使用方法
	嘔吐物の処理・消毒液の作り方
	コロナ禍におけるBLS(一次救命措置)
フィジカルアセスメント	概要
	基本手技
	腹部のアセスメント・課題学習1
	頭部のアセスメント・課題学習2
	バイタルサイン・確認問題「バイタルサイン」
養護教諭としての対応	養護教諭としての対応

①面接のポイント

面接試験のポイントについて、音声入り動画で解説した。

②面接の実際

令和4年度養護教諭採用試験に合格した社会福祉

学科の学生及び面接官役の教員2名で模擬面接を行った(図5)。



図5. 面接の実際

③模擬授業のポイント

模擬授業のポイントについて、音声入り動画で解説した。

④模擬授業の実際

模擬授業の実際について、令和4年度養護教諭採用試験に合格した社会福祉学科の学生が、ストレスに関する模擬授業を実際に行った。模擬授業後は、引き続き面接を行い子ども達に伝えたいこと、めあて、ポイント等を質問形式で行った(図6)。

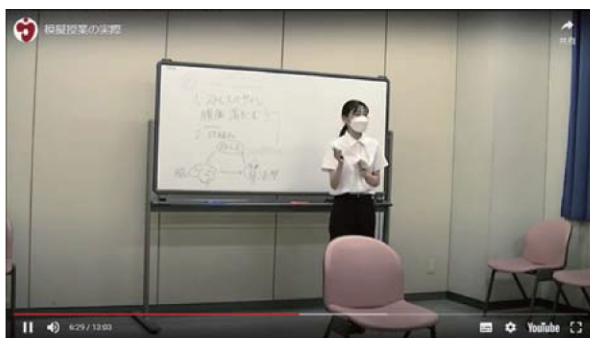


図6. 模擬授業の実際

⑤救急法実技のポイント

救急法実技を行う上でのポイントについて、音声入り動画で詳しく解説した。

(a) 前腕部の骨折固定

運動会の組体操で、前腕部を骨折した場合を想定した固定法について、アセスメント等を含めて動画で詳しく解説した(図7)。



図7. 前腕部の骨折固定

(b) 鎖骨骨折の固定

さまざまな包帯法がある中で、鎖骨骨折の場合に焦点を当て固定方法について、動画で詳しく解説した(図8)。



図8. 鎖骨骨折の固定

(c) エピペンの使用方法

食物アレルギーで給食後にアナフィラキシーショックを起こした場合を想定したエピペンの使用方法について、動画で詳しく解説した(図9)。



図9. エピペンの使用方法

(d) 嘔吐物の処理・消毒液の作り方

ノロウイルスによる食中毒で嘔吐した場合に、感染対策を徹底した上での嘔吐物の処理方法及び消毒

液の作り方について、動画で詳しく解説した（図10）。



図10. 嘔吐物の処理・消毒液の作り方

(e) コロナ禍における BLS（一次救命措置）

新型コロナウイルス感染症流行期の BLS（一次救命措置）について、動画で詳しく解説した（図11）。



図11. コロナ禍における BLS（一次救命措置）

⑥フィジカルアセスメント

養護教諭に必要なフィジカルアセスメントとして、身体の状態を正しく判断するための基本を、音声入り動画で詳しく解説した。

(a) 基本手技

フィジカルアセスメントの基本手技を音声入り動画で詳しく解説した。事例を取り入れた課題学習あるいは確認問題を取り入れることで、学習内容の理解度を確認した。

(b) 腹部のアセスメント

腹部のアセスメントを音声入り動画で詳しく解説したのち、課題学習 1 として「「おなかが痛い」と訴えてきた小学校 4 年生男児への対応」の事例において理解度を確認した（図12）。

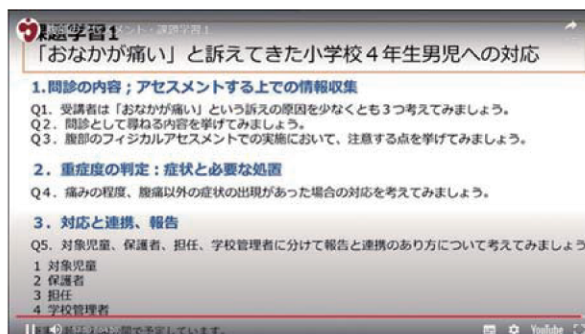


図12. 腹部のアセスメント課題学習 1

(c) 頭部のアセスメント

頭部のアセスメントを音声入り動画で詳しく解説したのち、課題学習 2 では「泣きながら「頭が痛い」と訴える小学校 2 年生女児」の事例において理解度を確認した（図13）。

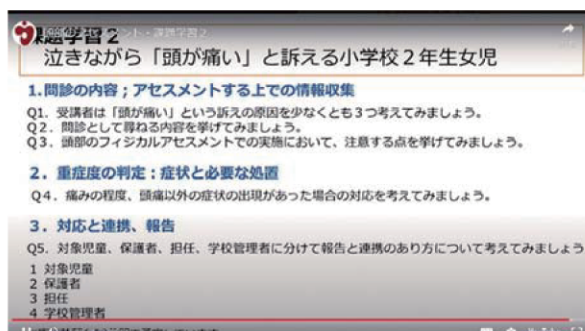


図13. 頭部のアセスメント課題学習 2

(d) バイタルサイン

バイタルサインの基本、呼吸、体温、脈拍、血圧の測定方法等について詳しく解説したのち、確認問題「バイタルサイン」で理解度を確認した（図14）。

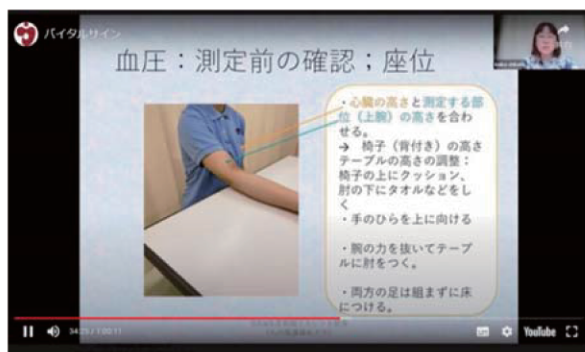


図14. バイタルサイン

(e) 養護教諭としての対応

保健室来室から後処理まで、フィジカルアセスメ

ントを含めた養護教諭としての対応について、音声入り動画で詳しく解説した(図15)。

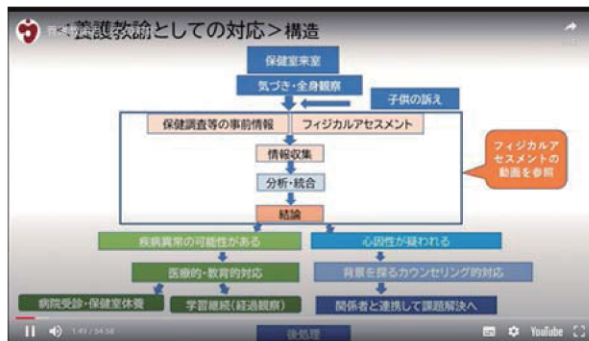


図15. 養護教諭としての対応

4) 知識習得講座

近年の教育事情に関する講座の内容として、児童生徒の心身の健康問題の現状、教育政策の動向と子どもをめぐる学校と社会の状況、発達障害の理解と対応について動画を配信した(表3)。

表3. 知識習得講座

児童生徒の心身の健康問題の現状－心身の健康問題を中心に－	健康相談の基本的理解
児童生徒の心身の健康問題の現状から	学校保健に関する最新情報
教育政策の動向、子どもをめぐる学校と社会の状況 他	教育政策の動向、学習指導要領改訂の背景、教科横断と教科の見方・考え方、GIGA スクール構想と ICT、ICT と教育方法
発達障害の理解と対応について	発達障害の理解と対応について

(1) 児童生徒の心身の健康問題の現状－心の健康問題を中心に－

①健康相談の基本的理解

児童生徒の心身の健康問題として、養護教諭に必要な健康相談の基本的理解について、音声入り動画で詳しく解説した(図16)。

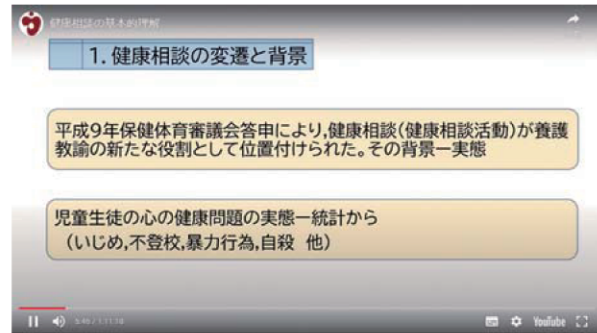


図16. 健康相談の基本的理解

②児童生徒の心身の健康問題の現状から学校保健に関する最新情報

学校保健に関する最新情報として、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめとする学校現場に必要な知識を音声入り動画で詳しく解説した(図17)。

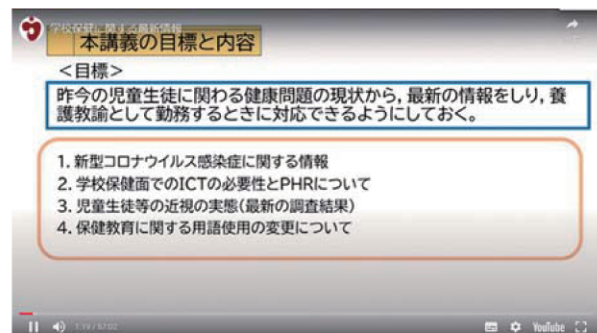


図17. 学校保健に関する最新情報

③教育政策の動向、子どもをめぐる学校と社会の状況

教育政策の動向、学習指導要領改訂の背景、教科横断と教科の見方・考え方、GIGA スクール構想と ICT、ICT と教育方法について解説した(図18)。

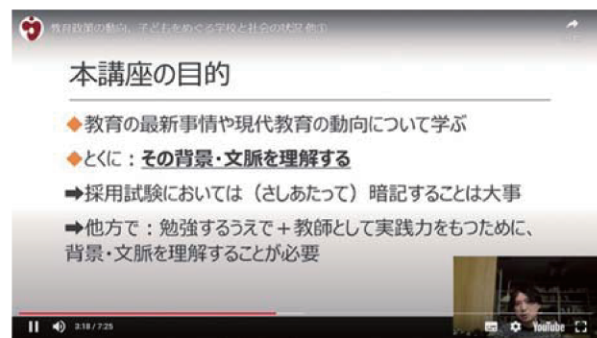


図18. 教育政策の動向、子どもをめぐる学校と社会の状況

④発達障害の理解と対応について

発達障害の定義、特性、環境要因、指導法等幅広い視点から発達障害の理解と対応について音声入りで詳しく解説した（図19）。

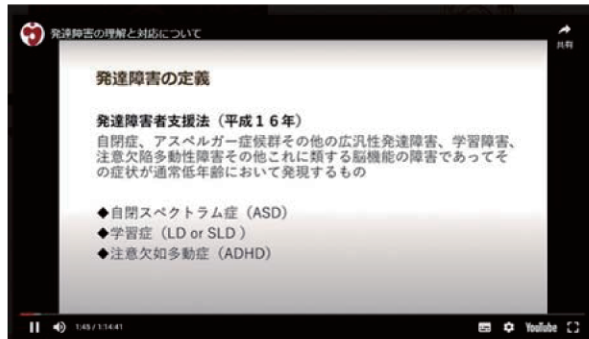


図19. 発達障害の理解と対応

5) 研修報告会「まとめの会」

(1) 「まとめの会」の実施状況

令和5年2月22日（水）に開催した。受講者2名と教職課程運営委員の7名及び記録者1名が参加し、リアルタイムでZoom（ビデオ会議システム）を利用して「まとめの会」を実施した。

式次第は以下のとおりである。

1. 開会
2. 代表挨拶
3. 自己紹介（受講者、教職課程運営委員参加者）
4. 受講者より視聴状況及び目標達成状況等についての報告
5. 受講内容等についての質疑応答
6. 今後の目標について
7. 連絡事項（アンケート実施について、動画視聴期間等）
8. 閉会

受講者の動画視聴状況を確認し、動画に対する感想、質問等、積極的な意見交換が行われた。受講者は2名とも子育て中の母親であったため、家事・育児の合間に動画を視聴していた。良かった点としての発言内容としては、オンデマンド形式で空いた時間に視聴できることがあがっていた。一方、家事・育児との両立をしながらであったため、学習をする時間が足りなかったと話していた。また、実施者側から、他にどのような動画があれば良かったかとの質問に対しては、救急法実技の中で取り扱われていたエビペン使用前後の対応について、頭部・顔面の

打撲及び捻挫の対応に関しての要望があった。

(2) 今後についての目標

1名は既に令和5年度の養護教諭の臨時採用が決まっており、本講座の内容は大変参考になったとのことであった。もう1名は、現在は子育て優先の生活ではあるが、養護教諭として復帰することを目標に、勉強を続ける意欲が沸いたと話していた。

【事業に関する担当者意見】

今回の担当をした教職課程運営委員が研修に関して振り返りを行い、その意見を集約した内容を以下に示す。

1. 取り組み全体について

採択通知の6月から実施の7月まで短期間であったが、それぞれの教員が自己の専門分野を生かした取り組みができていたのではないかと感じている。しかしながら、準備期間が短かったため受講者側の興味関心の所在、希望、学び直したい内容等の分析が十分にできないままの実施であったのが残念であった。

2. 良かった点について

- ・養護教諭に求められることや教員採用試験一次試験対策・二次試験対策、教育の最新事情等、今後、採用試験を受験し、養護教諭として現場で活躍するために必要な内容が網羅されており、全体の内容や構成は良かった。
- ・オンデマンド配信だったため、受講者のペースに合わせて受講できるシステムだった。

3. 反省点・改善点について

- ・周知が遅かったため、結果的に受講開始時期が遅くなり、受講期間が短くなった。
- ・受講者が少なかった点は、周知時期を早める、周知方法を考えるなど課題が残った。
- ・採択が決まったのちに急遽準備に取り掛かったため、令和4年度の一次試験対策・二次試験対策に間に合わなかったため、令和5年度の受験に役立たせて欲しい。
- ・受講者は仕事や家庭の都合で、まとまった受講時間が取れなかったとのことで、短時間での視聴が可能なよう、1つの講座を分割して短時間の構成にすることが望ましい。
- ・受講者のもう一度学び直したいという希望を、十

分に分析できていない印象だった。まとめの会で出た意見を参考に、講座構成の検討が必要だと感じた。

- ・動画を作成する際に、サブタイトルがあればより内容がわかるため、今後改善していきたい。
- ・受講期間中、受講者から質問等は無かったが、まとめの会では学習内容に関する質問が出た。学習を進めていくことがなかなか難しかったなどの話もあり、定期的に声掛けをして励ましていくことも必要だったのではないかと考える。

4. 講座内容について

1) フィジカルアセスメント

- ・対面での実技演習を想定していたが実施できなかった。実技に関する講座の場合、実際に経験ができることが望ましいと感じた。
- ・今回の講座は基礎的内容が中心だったため、まとめの会を実施して、受講者の興味関心がある事項を追加した内容に工夫することが必要と感じた。また、基礎だけでなく、応用・実践の内容も追加すると良いと感じた。

【まとめ】

今回の事業に関する総合的な反省と今後の展望については、以下のようにまとめられた。

- ・受講者の1名が、令和5年度の養護教諭の臨時採用が決まり、学校現場に復帰が決まったことは非常に良かった。
- ・今回の反省点を踏まえ、令和5年以降の教職リカレント教育の継続に向けて、検討したい。
- ・現職の教員に対しても、研修の場を提供できるような取り組みを今後検討していきたい。

【今後の課題】

今回の事業は教職課程運営委員会が企画、運営を担ったが、今後も研修を継続し発展させていくためには教職課程のセンター化が望まれる。教職課程センターの設置により、教職課程の運営のみならず免許取得者のキャリア・アップ（専門力）もしくはキャリア・リフレッシュ（復職力）を目指したリカレント教育の実施と研究を充実させていくことが今後の課題である。

【謝辞】

今回の研修事業の実施にあたり快くご協力いただいた株式会社時事通信社、卒業生を始めとした学内外の方々に御礼申し上げます。

【文献】

- 1) 大井克彰、山口晶子. コラム 経済トレンドリカレント教育について. 広報誌「ファイナンス」. 財務省. 2021;8月号:46-48.
- 2) 岩永雅也. 成人の学習と高等教育. 高等教育研究. 日本高等教育学会編. 2022;25:11-30.
- 3) 笹井宏益. 日本におけるリカレント教育の構造と機能の分析—学び直し論との関連を踏まえて—. 玉川大学学術研究所紀要. 2020;26:17-32.
- 4) 前掲3)・p.20.
- 5) 川口昭彦、江島夏実. 専門職教育質保証シリーズ リカレント教育とその質保証 日本の生産性向上に貢献するサービスビジネスとしての質保証. 東京:ぎょうせい;2021:8.

Web サイト

文部科学省 (2023年). 「学校教育における外部人材活用事業／就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業」成果報告書 (令和4年度). 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sankou/1302629_00002.htm (2023年5月26日閲覧)

文部科学省 (2022年). 令和4年4月1日現在の教員免許状を取得できる大学: 文部科学省. 文部科学省ホームページ.

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/1286948.htm (2023年5月2日閲覧)

文部科学省 (2022年). 令和4年度「学校教育における外部人材活用事業」の公募について. 文部科学省ホームページ.

https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00207.html (2023年5月2日閲覧)

文部科学省（2020年）. 令和元年度就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業委託要項（mext.go.jp）. 文部科学省ホームページ.

https://www.mext.go.jp/content/20200228-mxt_kyoikujinzai01-000005282_1.pdf

（2023年5月15日閲覧）

2177159985 （2023年5月15日閲覧）

文部科学省（2020年）. 令和2年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラ

ムの開発・実施）」申請・採択状況. 文部科学省ホームページ.

https://www.mext.go.jp/content/20210611-mxt_syogai03-000015945.pdf

（2023年5月15日閲覧）

文部科学省（2020年）. 「社会経験をいかして「教師」になる by 文部科学省」 | Facebook. 文部科学省ホームページ.

<https://m.facebook.com/recurrent.mext/posts/11340>